

# 第77回 日本農業教育学会大会 公開特別講演・公開シンポジウム・総会・研究発表会 プログラム

主催：日本農業教育学会

後援：国立大学法人北海道教育大学，北海道教育委員会，旭川市教育委員会

**1 期日** 2019年 9月 7日（土）～ 9月 8日（日）

**2 会場** 北海道教育大学旭川校  
〒070-8621 旭川市北門町9丁目

**3 日程** 9月 7日（土）

11：00～12：00	編集委員会	(講義棟 1階)	L101教室)
12：00～13：00	評議員会	(講義棟 1階)	L101教室)
13：00～14：30	公開特別講演	(講義棟 2階)	L202教室)
14：45～17：00	公開シンポジウム	(講義棟 2階)	L202教室)
18：00～20：00	懇親会	(トーヨーホテル，	送迎あり)

9月 8日（日）

9：30～11：30	研究発表会	(講義棟 2階)	L202教室)
11：30～12：00	高校生ポスター発表	(講義棟 1階)	L102教室)
13：00～14：00	総会	(講義棟 2階)	L202教室)
14：00～16：30	研究発表会	(講義棟 2階)	L202教室)

**4 公開特別講演 9月7日（土） 13：00～14：30**

テーマ： 気象変動に負けない土づくり～<耕す>について～

講演者： 田村 政行 氏（スガノ農機株式会社 土の館 館長）

**5 公開シンポジウム 9月7日（土） 14：45～17：00**

1) テーマ

食農教育における探求的な学びの実現

2) 趣旨

平成 20 年改訂の学習指導要領総則に「学校における食育の推進」が盛り込まれ、食育に関連する各教科等での記述が充実されました。これに伴い、学校教育では、児童・生徒の農業への理解や食への適切な態度の育成のみならず、人間関係の形成や持続可能な社会の構築といった多岐にわたる目標を掲げ農業体験活動が盛んに行われています。これらの活動が児童・生徒にとって単なる大人から与えられた活動に終わら

ず、児童・生徒の問いから設定した課題に対して情報収集・分析・表現を通じて解決する、いわゆる、探求的な学びとして成立させるための鍵は何か。食農教育の実践および研究の事例を基に考えていきたいと思えます。本シンポジウムが食農教育を世界に生きる市民教育の場へと展開できる契機となることを期待しております。

### 3) 場所

講義棟2階 L202講義室

### 4) プログラム

第1部 講演 14:45～15:45

司会：阿部 二郎（北海道教育大学）

講演者：

1. 丹羽 洋彦（札幌市立新琴似南小学校）  
食への見方・考え方を豊かにする探究的な学習の在り方
2. 関 健太（北海道教育大学附属旭川中学校）  
多面的・多角的思考を育成する生物育成カリキュラムのあり方
3. 平尾 健二（福岡教育大学）  
「育てる」学びをサポートする体制作り  
～生物育成学習支援システム（SUNS）の構築～

第2部 パネルディスカッション 16:00～17:00

コーディネーター：阿部 二郎

パネリスト：丹羽 洋彦 ・ 関 健太 ・ 平尾 健二

## 6 参加費について

参加費、懇親会費は、当日受付でお支払いください。

〈参加費（研究発表要旨集代を含む）〉

一般：3,000円 学生：1,000円

〈懇親会費〉

一般：5,000円 学生：4,000円

**懇親会 9月7日（土）18:00～20:00**

会場：トーヨーホテル、送迎あり（17:30分に正門へお越しください）

## 7 交通案内

アクセスマップ：<http://www.hokkyodai.ac.jp/asa/access/>

【旭川駅から】

○バス利用の場合

・旭川電気軌道バス「5番旭町・春光線」（のりば4）で15分、バス停「旭町2条10丁目」下車、徒歩5分

- ・旭川電気軌道バス「14番旭町線」（のりば14）で15分、バス停「旭町2条10丁目」下車、徒歩5分
- ・旭川電気軌道バス「24番新橋・北門線」（のりば14）乗り場で15分、バス停「北門9丁目」下車、徒歩5分

※バス会社（旭川電気軌道）ホームページ

<http://www.asahikawa-denkikidou.jp/regular-route/>

※旭川駅周辺バスののりば案内図

[http://www.asahikawa-denkikidou.jp/manage/wp-content/uploads/2018/11/ekimaeno\\_riba\\_2018.11.11.pdf](http://www.asahikawa-denkikidou.jp/manage/wp-content/uploads/2018/11/ekimaeno_riba_2018.11.11.pdf)

○タクシー利用の場合

JR旭川駅周辺から北海道教育大学旭川校まで、運賃1200円程度

## 8 学内案内図

北海道教育大学旭川校構内案内図をご覧ください。

<http://www.hokkyodai.ac.jp/asa/intro/campus-map/>



※会場へは、正門よりお入りください

● **研究発表会 9月8日（日） 9:30～11:30, 14:00～16:30**

発表時間12分・質疑応答3分

1鈴10分・2鈴12分（発表終了）・3鈴15分（質疑応答終了）

**9時30～10時30分** 座長：柳 智博（香川大学）

1. 大学農場でのGAPを導入した農業教育の実践  
○小松崎将一（茨城大学農学部附属国際フィールド農学センター）
2. 産消提携における学び合いの課題  
—生産者と消費者の行き違いが意味するところ  
○網島洋之（大阪市立大学）
3. 地域活性化プロジェクト「田んぼアート」による学び  
○中村 孝二<sup>1</sup>，松添 直隆<sup>2</sup>  
（熊本県立大学環境共生研究科<sup>1</sup>，熊本県立大学環境共生学部<sup>2</sup>）
4. 福島県内における食用ギクに関する嗜好について  
～「道の駅」とスーパーの調査から～  
○木村 和史（新潟県立加茂農林高等学校）

**10時30分～11時30分** 座長：箕作 和彦（奈良教育大学）

5. 日本の農業経営と農業知識移転の歴史的考察  
○宮田 晃宏（熊本県立鹿本農業高等学校）
6. 野菜栽培を通じた小学生との交流学习が農業高校生に与える教育的効果  
○高尾 勝俊<sup>1,2</sup>，松添 直隆<sup>2</sup>  
（長崎県立島原農業高等学校<sup>1</sup>，熊本県立大学環境共生学部<sup>2</sup>）
7. 全国の知的障害特別支援学校(高等部)における農業教育の現状と課題  
○谷川 毅<sup>1,2</sup>，井澤 信三<sup>2</sup>  
（兵庫県立氷上特別支援学校<sup>1,2</sup>，兵庫教育大学大学院学校教育研究科<sup>2</sup>）
8. 地域の特徴を生かした教材（ジャガイモ袋栽培）に関する研究  
—増し土および施肥時期がジャガイモの生育および収量に及ぼす影響—  
○鎌田 英一郎（長崎大学教育学部）

**14時00～15時00分** 座長：荒木 祐二（埼玉大学）

9. 農業高校における地域連携を取り入れた授業の検討  
—テキストマイニングを用いた分析—  
○三宅 義貴（兵庫県立農業高等学校）
10. 園芸学における基本用語の理解について  
—記述式テストから見えてきたこと—  
○齊藤秀幸<sup>1</sup>，菅原正嗣<sup>2</sup>  
（宮城大学食産業学群<sup>1</sup>，宮城県仙台二華中学校<sup>2</sup>）
11. 総合的な学習の時間を核としたカリキュラムマネジメント  
のモデル開発—地域の伝統野菜の栽培「そだてタイム」を通して—  
○森 太郎<sup>1</sup>，山田繁樹<sup>2</sup>，山村 薫<sup>3</sup>，松永大樹<sup>3</sup>，山本 寛<sup>3</sup>，山田 礼<sup>2</sup>，久保加織<sup>1</sup>  
（滋賀大学教育学部<sup>1</sup>，滋賀大学大学院教育学研究科<sup>2</sup>，甲賀市立甲南第二小学校<sup>3</sup>）
12. 栽培学習を想定した簡単な接ぎ木方法の検討  
—ジャガイモとトマトを用いた接ぎ木とその後の生育—  
○勝川 健三（弘前大学 教育学部）

**15時00～16時00分** 座長：太田 弘一（愛知教育大学）

13. 技術・家庭（技術分野 B生物育成の技術）の教材開発研究  
—家禽（鶏）教材化の検討 動物愛護管理法と食育基本法の狭間で—  
○阿部 二郎<sup>1</sup>，野原 楓<sup>2</sup>  
（北海道教育大学函館校教職大学院<sup>1</sup>，北海島教育大学函館校<sup>2</sup>）
14. 品種の違いと灌水頻度の違いが容器栽培のラッカセイの子実生産に及ぼす影響とそ  
れを用いたバイオマスエネルギーの教材化に関する研究  
○藤井 道彦<sup>1</sup>，杉澤 洋斗<sup>1</sup>（静岡大学教育学部<sup>1</sup>）
15. 専門高校農業科における「生物育成の技術」関連科目の教育内容分析  
○東原 貴志<sup>1</sup>，荒木 祐二<sup>2</sup>  
（上越教育大学<sup>1</sup>，埼玉大学<sup>2</sup>）
16. 高等学校の農業教育における森林・林業教育と技術科教育での生物育成との教育内  
容の比較  
○井上真理子<sup>1</sup>，大石康彦<sup>1</sup>（森林総合研究所多摩森林科学園<sup>1</sup>）

**16時00～16時30分** 座長：出口 哲久（北海道教育大学）

17. 伝統カボチャ品種の教材的利用

ーバスケット，露地栽培におけるカロテノイド色素ー

○渡辺慶一，水野真二，近藤春美，上吉原祐亮，立石 亮，新町文絵  
（日本大学生物資源科学部）

18. 総合的な学習の時間のイネ栽培学習が子どもの食農意識に及ぼす影響

荒川 涼<sup>1</sup>，○菅野伸二<sup>1</sup>，石谷清隆<sup>2</sup>，伊東 純<sup>3</sup>，峯岸 敦子<sup>4</sup>，上地由朗<sup>1</sup>  
（東京農業大学農学部<sup>1</sup>，狛江第五小学校<sup>2</sup>，緑野小学校<sup>3</sup>，松原小学校<sup>4</sup>）